【 札 幌 支 部 の 歩 み 】

【北海道高体連登山専門部　札幌北高等学校　田中　拓己】

令和７年度の高体連札幌支部大会は第 63 回を数えましたが、残念ながら初期の活動データはすでに無く、データのかろうじて残っている第 32 回大会からの様子をお伝えします 。

1. 大会参加状況の変遷

1)第 32 回(1994 年)大会 (会場：空沼岳・挟薄山)多くの参加がありました 。

男子（13 校 121 名）：札幌平岸高校、札幌新陽高校、札幌稲西高校、江別高校、札幌北高校、札幌西高校、札幌南高校、札幌月寒高校、札幌工業高校、北海道工業高高校（現 北海道科学大高校）、北広島高校、浜益高校、札幌藻岩高校、東海大四高校 。

女子（9 校 46 名）：札幌新陽高校、札幌稲西高校、江別高校、札幌北高校、札幌西高校、北星学園女子高校、札幌南高校、北広島高校、浜益高校 。

顧問：28 名 。

2)減少期

加盟校の減少により生徒数も減少しました 。

第 57 回大会(2019 年)：男子７校 50 名、女子５校 22 名 。

3)現状（コロナ禍のアウトドアブーム後）

学校数は半減し、顧問数も減っており、運営が大変になっています 。

男子（6 校 85 名）：江別高校、札幌北高校、札幌西高校、札幌南高校、札幌工業高校、北広島高校 。

女子（5 校 44 名）：札幌北高校、札幌西高校、札幌南高校、北広島高校、北星学園女子高校 。

顧問：18 名 。

2. 大会実施内容と野営地の変化

1)初期（第 42 回(2004 年)大会の様子）

北広島高校の木村先生からの情報によるものです 。

・実施時期：ゴールデンウイーク明け 。

・行程：当番校に集合しペーパーテストを実施 、バスで野営地へ移動 。

・野営地：朝里峠の旧道脇の平坦な雪原 。トイレは男女の場所の指示がありました 。

・登山と審査：小天狗岳登山 、下山後に天気図審査を屋外の生放送で実施 。その後、夕食・就寝 。

2 日目：白井岳・余市岳に登山 。

3 日目：閉会式 。

2)その後の変遷

・第 44 回大会(2006 年)～第 54 回大会(2016 年)：
実施時期が 5 月下旬に移りました。野営地が Fu's スキー場になり、芝生の上での快適なキャンプとなりました 。

・第 55 回大会(2017 年)～第 57 回大会(2019 年)：
野営地は定山渓自然の村でした 。

・コロナ禍の影響：

第 58 回(2020 年)大会は中止 。

第 59 回(2021 年)、第 60 回大会は宿泊なしで実施 。

第 61 回(2023 年)大会以降：

定山渓自然の村がコロナ以降は受け入れ定員を半減させたため、野営地をばんけいスキー場(キャンプ場は 2022 年にオープン）に移しました 。

3. 最近の課題

最近の課題として、チーム行動をどのように実施していくかが挙げられています 。

・第 63 回（2025 年）：チーム行動初年で三角山・奥三角山、手稲山で実施しました 。

・問題点：規定時間がゆるく差がつかないという状況でした 。

・今後の課題：適正な規定時間を決めること、道迷いも無く安全にチーム行動を実施できる山を見つけることなど 。

4. 高体連支部大会外の活動

高体連札幌支部の大会とは別に、親睦的な目的の大会を実施しています 。胆振・後志・上川の山域に多く行っています 。春季大会：6 月に実施（2025 年で第 36 回大会） 。秋季大会：9 月に実施（2025 年は荒天のため中止、2024 年で第 52 回大会） 。

	支部大会(32回～63回)				秋季大会(　～52回)		春季大会(～36回)	
年	山域	宿泊地等	男子参加校 女子参加校	男子参加人数 女子参加人数	山域	宿泊地等	山域	宿泊地等
1994	狭薄山～空沼岳		13 9	121 46			風不死・樽前	
1995	無意根大橋～中岳						羊蹄山	
1996	漁川～漁岳		14 7	93 35			チセヌプリ	
1997	春香山～奥手稲山		11 8	78 30			風不死・樽前	
1998	無意根山縦走	無意根山山荘	13 5	81 21	昆布岳		ニト・チセヌプリ	五色温泉
1999	薄別～中岳・無意根山	無意根山山荘	13 6	81 22	恵庭岳		目国内岳	新見温泉
2000	狭薄山～空沼岳	万計沼	13 5	80 19	岩内岳・雷電山	岩内勤労者	徳舜別・ホロホロ	大滝村
2001	奥漁橋～漁岳		14 4	79 18	南暑寒岳	雨竜沼湿原ゲートパーク	羊蹄山	羊蹄山自然公園
2002	ピンネシリ山系	道民の森	11 6	66 25			余市岳	おたる自然の村
2003	砥石山・札幌岳		12 9	80 41			チセヌプリ・シャクナゲ岳	湯本温泉
2004	小天狗岳・白井岳・余市岳		11 7	68 27	ホロホロ・徳舜別岳		風不死岳	モラップ
2005	神居尻山・隈根尻山・ピンネシリ	道民の森	12 5	59 14			羊蹄山	羊蹄山自然公園
2006	八剣山・札幌岳・空沼岳	Fu'sスキー場			芦別岳	山部自然公園	ニト・チセヌプリ	五色温泉
2007	余市岳		11 3	46 5	空沼岳	Fu'sスキー場	於古発山	おたる自然の村
2008	ｱﾝﾇﾌﾟﾘ・ﾁｾ～ｲﾜｵﾇﾌﾟﾘ	湯本温泉					富良野岳	吹上温泉
2009	迷沢山・無意根山	Fu'sスキー場	10 6	57 24	上ホロカメットク	吹上温泉	神居尻山	
2010	樺山・余市岳	Fu'sスキー場	10 6	73 26	天塩岳	天塩岳ヒュッテ	神威岳・烏帽子	Fu'sスキー場
2011	イチャンコッペ・風不死岳・樽前山	Fu'sスキー場	9 3	75 17			岩内・目国内岳	岩内リゾート
2012	砥石山・春香山	Fu'sスキー場	9 6	74 23	アポイ岳	アポイ山麓	徳舜別・ホロホロ	Fu'sスキー場
2013	手稲山・空沼岳	Fu'sスキー場	10 6	75 23	芦別岳	山部自然公園	富良野岳	吹上温泉
2014	神居尻山・ピンネシリ	道民の森	10 6	87 23	目国内岳・岩内岳	岩内リゾート	白樺・シャクナゲ	羊蹄山自然公園
2015	長尾山・無意根山	Fu'sスキー場	9 4	72 17	赤岳・白雲岳		ニト・チセヌプリ	五色温泉
2016	砥石山・神威岳・烏帽子山	Fu'sスキー場	8 4	63 16	上ホロカメットク		アポイ岳	アポイ山麓
2017	春香山・札幌岳	定山渓自然の村	7 5	57 22	岩内岳・目国内岳	岩内リゾート	室蘭岳・カムイヌプリ	室蘭高原
2018	小天狗岳・空沼岳	定山渓自然の村	7 5	59 26	地震中止		昆布岳	羊蹄山自然公園
2019	迷沢山・無意根山	定山渓自然の村	7 5	50 22	上ホロ・富良野岳	吹上温泉	岩内・目国内岳	岩内リゾート
2020	中止				塩谷丸山	無し	中止	
2021	小天狗岳・札幌岳	無し	7 5	62 25	中止		中止	
2022	砥石山・手稲山	無し	7 4	74 25	塩谷丸山	無し	神威岳	無し
2023	盤渓山・空沼岳	ばんけいスキー場	6 4	70 36	岩内岳・目国内岳	岩内リゾート	徳舜別・ホロホロ	大滝村
2024	藻岩山・札幌岳	ばんけいスキー場	6 4	74 38	アポイ岳	アポイ山麓	遠藤山・塩谷丸山	おたる自然の村
2025	奥三角山・手稲山	ばんけいスキー場	6 5	85 44	鷲別岳(荒天中止)		尻別岳	羊蹄山自然公園

【函館支部の振り返り】

【元遺愛女子高等学校顧問　常田　貞彦】

（1）函館支部の参加校と顧問（敬称略）
（顧問名の記載もれはお許し下さい）
【市立函館】　（旧　函館東）（桜井、太田、鳴海、伊藤、稲岡、両角、北辻、松尾、斉藤、青沼、塩谷　他）
【函館中部】（升田、中森）
【檜山北】　（日下、鈴木、古谷）
【八雲】（大島、板垣、鈴木、藤本、大橋、荒瀬、井上、吉田、青沼、平林　他）
【函館ラ・サール】（海川、川村、松永、泊）
【遺愛女子】（稲垣、小安土、福庄、常田）
令和７年（2025）現在、檜山北・函館中部・遺愛女子は登山部活動停止。

（2）主に登っていた山（別掲の大会史参照）
【春季大会】
　恵山・海向山、横津・袴腰　白泉　臼別　太櫓　前千軒　メップ　カニカン　長万部　元山・笹山・八幡
【地区大会】
　狩場（賀老　新道　真駒内熊戻り　茂津多）　大千軒（奥ニ股）　遊楽部　白水　白泉　冷水　乙部
【秋季大会】
雄鉾　遊楽部　臼別　大平　狩場　羊蹄　大千軒　ニセコ（チセ、シャクナゲ　目国内）岩内　雷電

（3）函館支部での全道大会（当番校）
　1978 大千軒
　1989 狩場・駒ヶ岳
　1997 恵山・海向山・遊楽部・白水（左股　平田内）
　　（函館東・函館ラ・サール・檜山北）
　2006 白水・狩場（茂津多）（函館ラ・サール）
　2016 長万部　狩場（茂津多）（遺愛女子）

（4）地区大会参加者数
　　男女計　約 30 名～35 名程度
（全道大会地元実施時に最多 46 名）

（5）顧問研修会（オボコ山の家）
例年 11 月 23 日前後に実施し、その年度の活動を振り返り、翌日、満願展望台や周辺の調査。
那須の遭難後の登山活動の在り方などを検討した。

（5）その他（道南の山におけるエピソード等）
◎　遊楽部　道標設置　日下先生
◎　狩場（茂津多コース）太田神社
◎　雄鉾岳　登山道整備　満願展望台登山道開拓
（八雲ワンダーフォーゲルと八雲高校山岳部）
日本山岳遺産に認定(2025)
◎　全道大会への参加　（生徒や顧問との交流）
◎　大千軒の熊被害　　各地での熊出没(2025)
◎　恵山の遭難　捜索活動
◎　那須での高校登山大会での遭難
◎　コロナ禍での大会自粛・中止
◎　ヒヤッとした経験
　（中千軒での雪面滑落）(1996)
　（白泉　ニ股の滝下での捻挫）(1996)
　（長万部での下山時スリップ）(2008)
◎　カウンナイ川遡行後トムラウシへ（1994）
　　生徒・顧問共に充実と共にくたくた
◎　1993 年 4 月から 2020 年 3 月まで遺愛女子で顧問。その後　部活動停止。

（6）個人的な雑感
　こうして挙げてくると思い出がいっぱい詰まった活動ばかりで感慨深いです。生徒と共に登るときには天候やルートの状況、健康状態を考え安全登山を心がけていました。それと同時に山頂や道中での景観・動植物との出会いが楽しみでした。また、登山活動で関わりのあった生徒や顧問の先生、大会関係者の皆様との協力や語らいが、大きな賜物となっていると感じています。ありがとうございました。

大千軒

恵山

狩場

長万部

高体連函館支部登山専門部　大会史

（函館支部での実施）

		春季大会			地区大会				秋季大会		
		当番校	会場	期日	回	当番校	会場	期日	当番校	会場	期日
S 40	1965				1	西	袴腰岳				
S 41	1966				2	有斗	横津岳				
S 42	1967				3	遺愛	大千軒岳				
S 43	1968				4	白百合	横津岳				
S 44	1969				5	有斗	大千軒岳				
S 45	1970				6	ラサール	横津岳				
S 46	1971				7	今金					
S 47	1972				8	東	大千軒岳				
S 48	1973				9	有斗					
S 49	1974				10	八雲・ラサール					
S 50	1975				11	西	大千軒岳				
S 51	1976				12	檜山北・白百合					
S 52	1977				13	遺愛	大千軒岳				
S 53	1978				14	工業	大千軒岳				
S 54	1979				15	檜山北・東					
S 55	1980				16	ラサール	大千軒岳				
S 56	1981				17	中部・檜山北					
S 57	1982				18	有斗	大千軒岳				
S 58	1983				19	八雲					
S 59	1984				20	白百合	大千軒岳				
S 60	1985	東	駒ヶ岳		21	遺愛	大千軒岳				
S 61	1986	中部	海向山		22	工業			八雲・ラサール	雄鉾岳	
S 62	1987	工業			23	中部					
S 63	1988				24	檜山北・ラサール					
H 1	1989	工業	駒ヶ岳		25	遺愛			東	大千軒岳 沢	
H 2	1990	ラサール	恵山・海向山		26	東	大千軒岳		檜山北	遊楽部岳	
H 3	1991	遺愛	駒ヶ岳		27	檜山北			中部	狩場山	
H 4	1992	東	太檜岳		28	中部	大千軒岳		八雲	雄鉾岳	
H 5	1993	中部	長万部岳		29	ラサール			遺愛	羊蹄山・チセヌプリ	
H 6	1994	檜山北	カスベ岳		30	東			八雲	雄鉾岳	
H 7	1995	ラサール	前千軒岳		31	遺愛			中部	羊蹄山	
H 8	1996	東	臼別岳		32	檜山北			八雲	目国内岳・岩内岳	
H 9	1997	遺愛	メップ岳		33	中部			ラサール	狩場山熊戻り	
H 10	1998	檜山北	カニカン岳		34	八雲	大千軒・前千軒		東	羊蹄山	
H 11	1999	中部	長万部岳		35	ラサール	狩場山賀老		遺愛	大平山	
H 12	2000	八雲	太檜岳		36	東	遊楽部岳		檜山北	羊蹄山	
H 13	2001	ラサール	横津岳		37	遺愛	白水岳・冷水岳		中部	目国内岳・岩内岳	
H 14	2002	東	カニカン岳		38	檜山北	大千軒岳		八雲	雄鉾岳	
H 15	2003	遺愛	長万部岳		39	中部	狩場山		ラサール	雷電山	
H 16	2004	八雲	メップ岳		40	東	狩場山		遺愛	羊蹄山	
H 17	2005	遺愛	前千軒岳		41	ラサール	狩場山		中部	目国内岳・岩内岳	
H 18	2006	八雲	白水岳		42	遺愛	狩場山		東	岩内岳・雷電山	
H 19	2007	ラサール	横津岳・袴腰岳		43	中部	大千軒岳		八雲	雄鉾岳	
H 20	2008	遺愛	長万部岳		44	市函	遊楽部岳		ラサール	チセヌプリ・シャクナゲ岳	
H 21	2009	八雲	カスベ岳		45	遺愛	狩場山茂津多		市函	羊蹄山	
H 22	2010	ラサール	太檜岳		46	八雲	乙部岳		遺愛	目国内岳	
H 23	2011	市函	長万部岳	4.22金～23土	47	ラサール	冷水岳	5.26木～28土	八雲	大平山	9.9金～10土
H 24	2012	遺愛	白水岳	4.20金～21土	48	市函	狩場山茂津多	5.24木～26土	ラサール	岩内岳	9.7金～8土
H 25	2013	八雲	メップ岳	4.19金～20土	49	遺愛	遊楽部岳	5.23木～25土	市函	羊蹄山	9.6金～7土
H 26	2014	ラサール	恵山・海向山	4.18金～19土	50	八雲	狩場山茂津多	5.22木～24土	遺愛	大千軒岳	9.12金～13土
H 27	2015	市函	長万部岳	4.24金～25土	51	ラサール	狩場山茂津多	5.28木～30土	八雲	雄鉾岳	中止
H 28	2016	ラサール	白水岳	4.22金～23土	52	市函	狩場山茂津多	5.26木～28土	八雲	雄鉾岳	9.17金～18土
H 29	2017	遺愛	太檜岳	中止	53	ラサール	遊楽部岳	5.25木～27土	市函	チセヌプリ・シャクナゲ岳	9.15金～16土
H 30	2018	八雲	恵山・海向山	4.20金～21土	54	遺愛	乙部岳	5.24木～26土	ラサール	目国内岳・岩内岳	中止
H 31	2019	市函	元山・笹山・八幡岳	4.19金～20土	55	八雲	白泉岳	5.23木～25土	遺愛	雄鉾岳	9.13金～14土
R 2	2020	ラサール	恵山・海向山	中止	56	市函	狩場山茂津多	中止	八雲	カニカン岳	中止
R 3	2021	ラサール	恵山・海向山	4.24土	57	市函	遊楽部岳	5.27木～28金	八雲	カニカン岳	中止
R 4	2022	市函	恵山	4.23土	58	ラサール	袴腰岳・横津岳	5.26木～28土	八雲	カニカン岳	9.30土
R 5	2023	八雲	恵山・海向山	4.21金～22土	59	市函	乙部岳	5.25木～27土	ラサール	イワオヌプリ・チセヌプリ	9.29金～30土
R 6	2024	ラサール	恵山	4.26金～27土	60	市函	横津岳・袴腰岳	5.23木～25土	八雲	目国内岳	9.20金～21土
R 7	2025	市函	恵山・海向山	4.25金～26土	61	ラサール	乙部岳	5.22木～24土	八雲	ニセコ連峰	9.19金～20土

【室蘭地区の歩み】

【北海道高体連登山専門部　苫小牧高等商業学校　藤原　幸二】

１．室蘭支部大会の歩み（1962 年～2000 年）

室蘭支部創設時の歩みは３０周年記念誌から一部抜粋する。「室蘭支部は道高体連登山専門部発足と同時の１９６２年、室蘭地区３校（室栄、室東、室清水丘）、苫小牧地区３校（苫東、苫西、苫工）、日高地区３校（静内、浦河、様似）で始まった。その後の登山の隆盛に伴い参加パーティーも増し、女子も参加するようになり、一時期室蘭地区と苫小牧・日高地区の分割大会をするほどになった。７０年代は参加数が減ったものの比較的安定期であり、８０年代は男女、波のずれはあるものの急減と回復を経て現在に至っている（表１）」

表１：１９６２年度～１９９１年度

回	年度	会場	全道大会出場校 男子	全道大会出場校 女子	当番校
1	1962	恵庭岳	苫東・室栄・室清水		苫西
2	1963	アポイ岳	苫東・苫工・室栄		様似
3	1964	樽前山・風不死岳	苫東・苫工・静内		苫工
4	1965	ピセナイ岳・ポヨ岳	苫東・苫工	苫東	静内
5	1966	室蘭岳	苫工・室工	苫工	室工
6	1967	樽前山	苫東・苫工・室工	苫東	苫東
7	1968	室蘭岳（室蘭地区）	室工		室工
		樽前山（苫小牧地区）	苫東	苫東	静内
8	1969	ホロホロ山・徳舜瞥（室蘭地区）	室工		室工
		イドンナップ（苫小牧地区）	苫東	苫東	静内
9	1970	室蘭岳	室工・苫東	苫東	室工
10	1971	樽前山	室工・苫東	苫東	苫工
11	1972	室蘭岳	苫東・室工	苫西	室工
12	1973	ピンネシリ・アポイ岳	苫東・室工	苫西	様似
13	1974	恵庭岳	苫東・室栄	苫東	苫東
14	1975	ホロホロ山・徳舜瞥岳	苫東・室工	苫東	室工
15	1976	ピセナイ岳	苫東・静内	苫東	静内
16	1977	恵庭岳	苫東・室工	苫東	苫西
17	1978	室蘭岳・カムイヌプリ	苫東・室栄	苫東	室工
18	1979	アポイ岳	静内・室工	室栄	静内
19	1980	恵庭岳	苫東	苫西	苫東
20	1981	室蘭岳・カムイヌプリ	静内	苫西	室工
21	1982	ピンネシリ・アポイ岳	静内	静内	静内
22	1983	恵庭岳	室工	苫東	苫西
23	1984	ホロホロ山・徳舜瞥岳	室工	静内	室栄
24	1985	ベテガリ岳	室工・室栄	静内	静内
25	1986	樽前山・風不死岳	苫東・室工		苫東
26	1987	ピンネシリ・アポイ岳	室工・静内		静内
27	1988	室蘭岳・カムイヌプリ	苫東・登別	静内	登別
28	1989	恵庭岳	苫東・駒沢	静内	駒沢
29	1990	ホロホロ山・徳舜瞥岳	苫東・室栄	静内	室栄
30	1991	室蘭岳			室工

２．室蘭支部大会の歩み（2000～2025）

＜記録の途絶と再開＞

室蘭支部では、３０年記念誌に掲載されていた「表１」に示すとおり１９９９年度までは順調に活動が続いていた。しかし、2000 年度から 2016 年度にかけて顧問の異動等により大会記録が途絶している。この間、室蘭栄高等学校のみが全道大会に出場する唯一の山岳部として存続していたと考えられる。転機となったのは 2017 年度で、苫小牧高等商業学校（有朋苫小牧）に山岳部が設立され（顧問・藤原）、大会登録が行われた。同年４月には室蘭栄高等学校山岳部顧問・内海先生の主幹により、急遽地区大会が開催された。室蘭栄は全道大会の当番校業務も兼ねていたため、この年は極めて多忙な運営となったことと思われる。

以降、支部大会は室蘭栄が、新人大会は有朋苫小牧が当番校を務める形で運営が始まり、2017 年度から 2025 年度までの約 10 年間の歩みが２校によって再び刻まれることとなった（表２）。

表２：１９９１年度～２０２５年度

		支部大会				新人大会		
回	年度	会場	全道大会出場校 男子	全道大会出場校 女子	当番校	会場	参加校	当番校
30	1991	鷲別岳（室蘭岳）・カムイヌプリ	登別・室工	苫東	室工	記録なし		
31	1992	恵庭岳	苫東	苫東	苫東	記録なし		
32	1993	アポイ岳・ピンネシリ	静内	苫南	登別	記録なし		
33	1994	カムイヌプリ・鷲別岳（室蘭岳）	苫東	苫南	静内	記録なし		
34	1995	ホロホロ岳・徳舜別岳	苫東	室栄	室栄	記録なし		
35	1996	鷲別岳（室蘭岳）・カムイヌプリ	静内	室栄	室工	記録なし		
36	1997	樽前山	静内	苫東	苫東	記録なし		
37	1998	カムイヌプリ・鷲別岳（室蘭岳）	登別・静内	苫東	登別	記録なし		
38	1999	アポイ岳	不明	不明	静内	記録なし		
39	2000～	途中記録なし						
56	2017	鷲別岳（室蘭岳）・カムイヌプリ	室栄	室栄	室栄	恵庭岳	室栄・有苫	有苫
57	2018	アポイ岳・吉田岳・ピンネシリ	室栄	室栄	室栄	チセヌプリ・ニトヌプリ	室栄・有苫	有苫
58	2019	徳舜瞥山・ホロホロ山	室栄	室栄	室栄	樽前山・風不死岳	室栄・有苫	有苫
59	2020	鷲別岳（室蘭岳）・カムイヌプリ	室栄	室栄	室栄	昆布岳	室栄・有苫	有苫
60	2021	風不死岳・樽前山	室栄	室栄	室栄	コロナ禍により中止	室栄・有苫	有苫
61	2022	イチャンコッペ山・豊平山	室栄	室栄	室栄	目国内岳	室栄・有苫	有苫
62	2023	ピンネシリ・吉田岳・アポイ岳	室栄	室栄	室栄	風不死岳	室栄・有苫	有苫
63	2024	神居尻山・タヌキ山・坊主山	室栄	室栄	室栄	アンヌプリ・岩内岳	室栄・有苫	有苫
64	2025	大曲山・於古発山・遠藤山・塩谷丸山	室栄	室栄	室栄	チセヌプリ・シャクナゲ岳	室栄・有苫	有苫

３．支部大会再開後の年度別記録

＜2017 年度＞

室蘭岳（鷲別岳）を舞台に、「だんぱら公園キャンプ場」を野営地として実施。水元沢コースから入山し、カムイヌプリ往復を経て室蘭岳山頂に至り、西尾根を下山する行程であった。新人大会は恵庭岳を舞台とし、モーラップキャンプ場を野営地とした。ロープ場の長い下りでは渋滞が発生し、懸垂下降練習の必要性が認識された大会であった。

＜2018 年度＞

アポイ岳・吉田岳・カムイヌプリの縦走で実施。この大会から現登山専門委員長・三戸先生が室蘭栄顧問として関わり始めた。アポイ岳では「かんらん岩」が選手の注目を集め、後半では「ダニのピンネ」と呼ばれるピンネシリでダニの発生に見舞われたが、入念なチェックにより被害なく終了した。

＜2019 年度＞

徳舜瞥山・ホロホロ山の縦走登山を舞台とし、徳舜瞥山麓のキャンプ場を野営地とした。雪渓下りでは選手が歓声をあげながら滑降する場面もあり、縦走路から振り返る徳舜瞥山の白峰は印象的であった。

＜2020 年度＞

新型コロナウイルス流行により、室蘭岳の日帰り登山として実施。この年、インターハイは史上初の中止となった。新人大会は昆布岳で行われ、急な天候変化により土砂降りに遭遇。低体温症の初期症状を示す選手もいたが、適切な装備と行動食により回復し、無事に大会を終えた。

＜2021～2022 年度＞

コロナ禍の影響により支部大会は支笏湖外輪山周辺での日帰り登山として簡素に実施。2022 年度の新人大会は目国内岳を舞台とし、この大会から「チーム行動」が導入された。読図や記録書作成をチェックポイントで行う方式は選手に好評であり、以降の大会に定着した。

＜2023 年度＞

インターハイ北海道総体の年。テント泊が条件付きで解禁され、室蘭支部大会は再びアポイ岳で開催。ピンネシリ側登山口から入山しアポイ山荘へ下山する縦走行程であった。尾根道には高山植物が咲き乱れ、選手たちは豊かな自然を満喫しながら競技を行った。

＜2024 年度＞

支部大会は神居尻山を舞台に実施。初日はキャンプ場で野営し、翌日早朝に C コース登山口から入山した。急登が続く行程を経て BC 分岐点に至り、暑寒別岳を主峰とする増毛連山の景観を望んだ。神居尻山頂までの細尾根は体力審査に適し、大会のハイライトとなった。各チームが日頃の練習成果を発揮した大会であった。新人大会はニセコアンヌプリ・岩内岳を舞台とし、室蘭支部でもようやくテント泊が復活した。アンヌプリは晴天に恵まれたが、岩内岳はガスに覆われ冷え込み、一部のチームは山頂到達を断念した。

＜2025 年度＞

支部大会は小樽の塩谷丸山を舞台に、「おたる自然の村野営場」を拠点として実施。塩谷丸山は標高 629m と低山ながら、山頂から余市町や積丹岳・余別岳を望む景観に恵まれる。今大会では小樽天狗山を起点に、大曲山・於古発山・遠藤山を縦走して塩谷丸山に至るルートを採用した。高低差が少ない分、読図力を試すポイントを多く設けた。新人大会はニセコ山系で実施され、チセヌプリからシャクナゲ岳・白樺山を経て新見温泉へ下山する計画であったが、低気圧接近に伴う悪天候のため神仙沼駐車場への下山に変更された。終盤は激しい雨風に見舞われたが、選手たちは逞しく行動を続け、大会を完遂した。

４．総括

室蘭支部登山専門部は、2000 年代に一度記録が途絶えたものの、2017 年度に再び歩みを始め、以降 10 年余りにわたり大会を積み重ねてきました。振り返れば、室蘭岳やアポイ岳、徳舜瞥山、神居尻山、塩谷丸山など、道内の多彩な山々を舞台に胆振の高校生たちが挑戦を続けてきたことが、何よりの財産だと思います。

コロナ禍では大会の縮小や日帰り登山を余儀なくされ、インターハイが中止となった年もありました。あの時の高校生たちの悔しさは計り知れませんが、それでも昆布岳や支笏湖外輪山での大会を工夫して続けたことは、支部の「つなぐ力」を示すものだったと感じます。大会の形は変わっても、山に向かう高校生のまなざしは変わらず真剣で、そこに顧問や運営側の思いも重なって、支部の歴史は途切れることなく続いてきました。

また、室蘭支部で近年導入した「チーム行動」も選手たちに好評を得たのが印象的でした。読図やコンパス整置、山座同定、高山植物に対する知識、そして記録書作成などを通じて、ただ登るだけではない「登山競技の奥深さ」を体験する姿を見ると、顧問としても大きな手応えを感じました。

私自身、この 10 年の大会を振り返ると、大会山域の下見、読図や天気図の問題作成など運営の苦労や天候の不安定さに悩まされた場面も多々ありましたが、それ以上に「やっぱり山はいい」「高校生と一緒に山にいる時間はかけがえがない」と実感することばかりでした。大会後に見せる選手たちの笑顔や、山頂での歓声、時には雨風に打たれながらも前に進む姿は、顧問としての私の心に強く残っています。

室蘭支部の大会は胆振の自然を舞台に若者が逞しく成長していく場です。山を通じて高校生が挑戦し、仲間と支え合い、時に苦しみながらも笑顔で下山する――記録を振り返りながら、改めて「この支部の歩みを共にできたことは幸せだった」と感じています。

【小樽支部の歩みと現状】

【北海道高体連登山専門部　小樽潮陵高等学校　宮澤　宜法】

2025（令和7）年現在、小樽支部の山岳部がある高校は、小樽潮陵高校だけである。かつては、小樽桜陽高校、小樽工業高校、倶知安高校、小樽千秋高校（小樽工業高校の前身）、小樽商業高校、余市高校に山岳部があった。

小樽桜陽高校の山岳部は、1969（昭和44）年と1977（昭和52）年に支部大会で優勝している。2002（平成14）年頃に一度活動停止したが、2008（平成20）年に同好会設立、2011（平成23）年に部に昇格して、2021（令和3）年に部員は男女1名ずつ、計2名であると登山加盟校一覧にあるが、2022（令和4）年頃、活動停止となったようだ。

小樽工業高校の山岳部は 1987（昭和 62）年から1992（平成4）年まで6年連続でインターハイに出場している。1989（平成元）年には3位に入賞している。「はまなす国体」にも代表選手を出しており、北海道選抜チームは全国優勝した。2001（平成13）年までは活動していたようであるが、いつ頃なくなったか不明である。

倶知安高校の山岳部は、1987（昭和62）年のインターハイ（チセヌプリ・目国内岳・羊蹄山・アンヌプリ）が行われた頃は活動していて、1992（平成4）年の支部大会に参加しているが、その後なくなったようだ。

小樽千秋高校は1964（昭和39）年に小樽支部大会で優勝した記録がある。小樽千秋高校は1968（昭和43）年に小樽工業高校に改称された。

小樽商業高校は1967（昭和42）年に小樽支部大会で優勝した記録があるが、その後の詳細は不明である。

余市高校は、1971（昭和46）年と1972（昭和47）年に小樽支部大会で優勝しているが、その後の詳細は不明である。

高体連小樽支部大会の実施状況だが、北海道高等学校体育連盟登山専門部の「10年の歩み」という1991（平成3）年～2001（平成13）年までの記録を収めた冊子には、「小樽支部の歩みは、1964（昭和 39）年の第1回地区大会から始まる。以後 1992（平成4）年まで毎年地区大会が開催されたが、その後各学校の部員の減少やそれにともなう山岳部の廃部などにより地区大会の開催さえも困難になってきている。1996（平成8）年の第30 回大会を最後に地区大会は休止しているのが現状である。」と記載されている。1992（平成 4）年に第29回大会が実施され、1996（平成8）年に実施されたのが第30回大会である。次に小樽支部大会が実施されるのは、2010（平成22）年であり、参加校は小樽潮陵高校と小樽桜陽高校で、岩内岳で行われ、幕営地は岩内オートキャンプ場だった。その後、小樽支部大会は2019（令和元）年まで行われ、それ以降は行われていない。

秋季大会は、2014（平成26）年以前は行われていなかったが、2015（平成27）年に札幌地区秋季大会（銀泉台～大雪山赤岳～銀泉台）に小樽潮陵高校と小樽桜陽高校が参加した。小樽地区の秋季大会開催が検討されていた時期であり、試みとして札幌地区大会に加えてもらったようだ。2016（平成28）年9月17、18日に小樽支部として秋季大会を初めて実施した。ルートは、大沼～神仙沼～長沼～チセヌプリ～ニトヌプリであり、幕営地はニセコ野営場であった。秋季大会は2018（平成30）年まで行われたが、2019（平成31、令和元）年以降は行われていない。

小樽桜陽高校の山岳部の活動は、2016（平成28）年までは、5月から10月は月に1、2回の山行や合宿を行っていた。場所は、ニセコ、羊蹄山、札幌近郊（手稲、札幌岳、空沼岳など）で、ゴールデンウィークには暑寒別岳や十勝、夏合宿には大雪山系（石狩岳、ニペソツ山、トムラウシ山など）を山行していた。また小樽の塩谷丸山にも年に数回訪れていた。普段の活動は、校舎周辺やなえぼ公園でランニングや筋トレ、冬はクロスカントリースキーを行っていた。生徒数は3学年合わせて10名前後が多かったようだ。2022（令和4）年は、高体連小樽支部大会には参加しなかったが、クライミングの選手が全国大会に出場している。

小樽潮陵高校は2025（令和7）年現在、顧問2名、生徒7名（3年生男1女1、2年生男1女2、1年生男2）で活動をしている。支部大会を経ずに全道大会に出場することになるので、体力・経験等で全道大会レベルについて行けるように、4月から山行をしている。普段は月・水・金曜日に活動をしており、天気図の練習、山岳の知識の勉強、テント設営の練習、校舎周辺のジョギング、筋トレ、クライミングの練習などを行っている。令和6年度は顧問は3人体制であったが、令和7年度は2人体制であり、以前とは活動の仕方を変えている。

小樽潮陵高校は2025（令和7）年に5間口が完成した。小樽地区の少子化の影響を受け、子どもの数は減っている。教員の数も減り、学校として部活動を維持する

ことが難しくなることが予想される。山岳部も例外ではなく、新入生が入部しなければ全道大会に出場できなくなり、部の存続も危ぶまれる。また山の経験がある教員も宮澤だけであり、大変難しい状況である。長く続いた山岳部だからこそこれからも長く続いてほしい。

以下にこれまでの小樽潮陵高校の山行記録を綴ることにする。長い間に渡って生徒と顧問が一緒になって山に登っていたことはどこかに記録しておくべきだ。人が入れ替わり、時が経てば、忘れ去られてしまうからだ。人が山に登っていたという思い出は簡単に忘れ去るには忍びない。小樽で山に登っていた方がこの歩みを読み、「あの頃」を思い出してもらえれば幸いだ。小樽支部の他校の記録もできる限り残しておきたいのだが、残念ながらそれは叶わなかった。

2010（平成 22）年 5 月に小樽潮陵高校と小樽桜陽高校合同で、白銀荘に前泊して上ホロカメットクに登っているが、山頂アタックは断念している。この年は、小樽潮陵高校の山行は、岩内岳の地区大会（当番校は小樽桜陽高校）、空沼岳、定山渓神威岳・烏帽子岳、全道大会では札幌岳～空沼岳縦走、大雪山御鉢平（銀泉台～白雲避難小屋キャンプ場～御鉢周り）、余市岳、雨竜沼湿原であった。

2011（平成 23）年は、春香山、暑寒別岳、地区大会は小樽潮陵高校が当番校で新見峠から前目国内岳、目国内岳を登った。全道大会は小樽桜陽高校が当番校で、岩内岳～目国内岳縦走と羊蹄山（京極コースから真狩コース）を登った。卒業山行は樽前山～風不死岳、夏合宿は愛山渓温泉から入って沼巡りを行った。札幌岳、十勝連峰縦走（富良野～上ホロ）、塩谷丸山～天狗山の縦走を行った。

2012（平成 24）年は、春香山、暑寒別岳、地区大会ではチセヌプリ～シャクナゲ岳～白樺岳～新見峠を縦走した。全道大会では、ピンネシリ、南暑寒別岳～暑寒別岳を登った。卒業山行を兼ねた大雪合宿では、銀泉台～赤岳～白雲避難小屋キャンプ場、白雲岳、秋には十勝岳、手稲の平和の滝～北尾根を登った。

2013（平成 25）年は、春香山、空沼岳、地区大会で岩内岳（男女ともオブザーバー参加）、暑寒別岳、大雪合宿では黒岳～御鉢平～旭岳）を登った。

2014（平成 26）年は、塩谷丸山、春香山、前目国内岳、地区大会では新見温泉～目国内岳、空沼岳、全道大会でウペペサンケ山とニペソツ山、羊蹄山、大雪合宿で銀泉台～白雲避難小屋キャンプ場～御鉢周り、十勝連峰（富良野岳～上ホロカメットク～十勝岳）、札幌岳、塩谷丸山～天狗山だった。

2015（平成 27）年は、塩谷丸山、春香山、チセヌプリ、ニトヌプリ、地区大会で湯本温泉～チセヌプリ～ニトヌプリ～五色温泉、全道大会で風不死岳～樽前山と羊蹄山、大雪合宿で御鉢周り～旭岳、手稲山、1 年生は札幌支部の秋季大会で銀泉台～大雪山赤岳、美瑛岳～美瑛富士、塩谷丸山～天狗山、定山渓朝日岳～夕日岳、藻岩山だった。NAC インドアクライミング体験も実施した。

2016（平成 28）年は、1 年生 3 名がクライミングのみを行うクライミング部員となった。山行は、塩谷丸山、暑寒別岳、地区大会で岩内岳と幌別岳、全道大会では長万部岳と狩場山、卒業山行で利尻山、大雪合宿はトムラウシ山（短縮コース）、空沼岳、小樽支部初の秋季大会ではニセコ沼巡り、札幌岳、塩谷丸山、和宇尻山だった。

2017（平成 29）年は、塩谷丸山、カムイヌプリ～室蘭岳、春香山、支部大会でカムイヌプリ～室蘭岳、暑寒別岳、全道大会でカムイヌプリ～室蘭岳と来馬山（男子）・カルルス山（女子）、卒業山行で羅臼岳、大雪合宿で御鉢平、手稲山、十勝連峰（富良野岳）、秋季大会で羊蹄山、塩谷丸山～天狗山、朝日岳～夕日岳、NAC インドアクライミング体験、札幌地区高等学校山岳部登山研修・講習会だった。

2018（平成 30）年は、塩谷丸山、春香山（2 回）、地区大会で目国内岳、全道大会で十勝連峰、銭函天狗山、秋季大会で羊蹄山、札幌岳、銭函天狗山だった。

2019（平成 31、令和元）年は、塩谷丸山、春香山、支部大会で岩内岳～目国内岳、銭函天狗山、富良野岳・上ホロカメットク山、羊蹄山、利尻山、大雪山（お鉢巡り）、暑寒別岳、銭函天狗山冬コース（スノーシュー）、全道大会で雄阿寒岳と雌阿寒岳だった。

2020（令和 2）年は、塩谷丸山、春香山、岩内岳、羊蹄山、星置川水系滝の沢川（沢登り）、大雪山（赤岳・白雲岳）、空沼岳、ニセコ沼巡り（チセ・ニト・イワオ）、神威岳、赤岩山縦走（スノーシュー）、銭函天狗山冬コース（スノーシュー）、和宇尻山（スノーシュー）、冬期クライミング合宿（美唄）だった。

2021（令和 3）年は、塩谷丸山、春香山、岩内岳、シリパ山、羊蹄山、室蘭岳滝沢コース、暑寒別岳、目国内岳、富良野岳・上ホロカメットク山、札幌岳、銭函天狗山、ニセコアンヌプリ、銭函天狗山冬コース（スノーシュー）、赤岩山縦走（スノーシュー）、全道大会で上ホロカメットク～十勝岳と北鎮岳～旭岳だった。

2022（令和 4）年は、塩谷丸山、春香山、岩内岳、シリパ山、羊蹄山、星置川水系滝の沢川（沢登り）、大雪山（旭岳・中岳・北鎮岳）、神仙沼～五色温泉縦走、塩谷丸山～天狗山縦走、チセヌプリ・ニトヌイプリ、札幌岳、

下赤岩山（スノーシュー）、赤岩山縦走（スノーシュー）、和宇尻山（スノーシュー）、朝里岳（スノーシュー）、全道大会で旭岳と黒岳～北鎮岳～中岳だった。

2023（令和５）年は、塩谷丸山、春香山、岩内岳、尻場山、羊蹄山、全道大会で旭岳と上ホロカメットク山、ニトヌプリ～チセヌプリ～ニトヌプリ、夏合宿で大雪山（銀泉台～赤岳～白雲岳）、カムイヌプリ（沢登り）、芦別岳、選抜大会で芦別岳、羊蹄山、イワオヌプリ、ニセコアンヌプリ、オリエンテーリング大会（札幌）、小樽海岸自然探勝路（赤岩山）、オリエンテーリング（ルスツ）、銭函天狗山だった。

2024（令和６）年は、朝里岳、塩谷丸山、春香山、五色温泉～イワオヌプリ～チセヌプリ、赤岩山、羊蹄山、五色温泉～チセヌプリ～神仙沼、羊蹄山、全道大会でニセコ連山と羊蹄山、引退登山で雨竜沼湿原、夏合宿で富良野岳、選抜大会で美瑛岳、目国内岳、暑寒別岳、ロゲイニング大会（登別）、神居尻山、銭函天狗山、赤岩山、和宇尻山と春香山

2025（令和７）年は塩谷丸山、春香山、岩内岳、赤岩山、神居尻山（２回）、暑寒別岳、全道大会で神居尻山と暑寒別岳、引退登山で春香山、夏合宿で大雪御鉢周り、選抜大会で室蘭岳とカムイヌプリ、岩内岳だった。

この原稿を書くにあたり、桐尾義之先生、岡部実先生、山納秀俊先生、藤本和夫先生、板垣教一先生にご助言頂きました。お礼を申し上げます。

小樽支部大会のあゆみ

回	年度	会場（山域）	支部大会優秀校 男子	支部大会優秀校 女子	当番校
1	1964(S39)		**小樽千秋**		
2	1965(S40)				
3	1966(S41)				
4	1967(S42)		小樽商業		
5	1968(S43)				
6	1969(S44)		小樽桜陽		
7	1970(S45)		小樽潮陵		
8	1971(S46)		余市		
9	1972(S47)		余市		
10	1973(S48)		小樽潮陵		
11	1974(S49)				
12	1975(S50)				
13	1976(S51)		小樽潮陵		
14	1977(S52)		小樽桜陽		
15	1978(S53)		**小樽工業**		
16	1979(S54)				
17	1980(S55)				
18	1981(S56)				
19	1982(S57)				
20	1983(S58)		小樽工業		
21	1984(S59)		小樽工業		
22	1985(S60)		小樽工業		
23	1986(S61)		小樽工業		
24	1987(S62)		**小樽工業**		
25	1988(S63)	ニセコ連峰(シャクナゲ岳・チセヌプリ・ニトヌプリ・イワオヌプリ)	**小樽工業**		倶知安
26	1989(H１)	ニセコ連峰(?)	**小樽工業**		小樽潮陵
27	1990(H２)	ニセコ連峰(チセヌプリ・ニトヌプリ・イワオヌプリ)	**小樽工業**		倶知安
28	1991(H３)	羊蹄山(真狩コース)	**小樽工業**		倶知安
29	1992(H４)	ニセコ連峰(シャクナゲ岳・チセヌプリ・ニトヌプリ・イワオヌプリ)	**小樽工業**	小樽潮陵	小樽工業
30	1996(H８)	ニセコ連峰(シャクナゲ岳・チセヌプリ)	小樽潮陵	小樽潮陵	小樽潮陵

※ゴシック太字は全国大会出場

※ 1976(Ｓ 51)については**小樽工業**が全国大会に出場

最近の支部大会参加校・人数

回	年度	性別	参加パーティ	人数
28	1991(H３)	男	小樽工業(2)・小樽潮陵(2)・倶知安(2)	２９
		女	小樽潮陵	1
29	1992(H４)	男	小樽工業(2)・小樽潮陵(3)・倶知安(2)	３１
		女	小樽潮陵	4
30	1996(H８)	男	小樽工業・小樽潮陵(3)	２４
		女	小樽潮陵	4

小樽支部の歩み

	支部大会				秋季大会			
	山域	宿泊地等	男子順位(参加校)	男子参加人数	山域	宿泊地等	男子順位(参加校)	男子参加人数
			女子順位(参加校)	女子参加人数			女子順位(参加校)	女子参加人数
1998(H10)								
1999(H11)								
2000(H12)								
2001(H13)								
2002(H14)								
2003(H15)								
2004(H16)								
2005(H17)								
2006(H18)								
2007(H19)								
2008(H20)								
2009(H21)								
2010(H22)	岩内岳	岩内オートキャンプ場	小樽桜陽(小樽潮陵)	6(9?)				
			該当なし	0(1?)				
2011(H23)	新見峠～目国内岳	岩内オートキャンプ場	小樽潮陵	6				
			該当なし(小樽潮陵)	2				
2012(H24)	チセヌプリ～シャクナゲ岳～白樺山～新見峠	ニセコサヒナキャンプ場	小樽桜陽(小樽潮陵)	8				
			小樽桜陽(小樽潮陵)	8				
2013(H25)	岩内岳	岩内オートキャンプ場	小樽桜陽(小樽潮陵)	6				
			小樽桜陽(小樽潮陵)	5				
2014(H26)	新見温泉～目国内岳	蘭越町リンリン公園キャンプ場	小樽桜陽(小樽潮陵)	15				
			小樽潮陵	4				
2015(H27)	湯本温泉～チセヌプリ～ニトヌプリ～五色温泉	ニセコサヒナキャンプ場	小樽潮陵(小樽桜陽)	18(6?)	札幌地区秋季大会 銀泉台～大雪山赤岳～銀泉台	層雲峡オートキャンプ場	(小樽潮陵、小樽桜陽)	9(8?)
			小樽潮陵(小樽桜陽)	7(5?)			(小樽桜陽)	2
2016(H28)	岩内岳～幌別岳	岩内オートキャンプ場	小樽潮陵(小樽桜陽)	18	大沼～神仙沼～長沼～チセヌプリ～ニトヌプリ	ニセコ野営場	(小樽潮陵、小樽桜陽)	10
			小樽潮陵(小樽桜陽)	9			(小樽潮陵、小樽桜陽)	4
2017(H29)	カムイヌプリ～室蘭岳	登別市ネイチャーセンターふぉれすと鉱山	小樽潮陵(小樽桜陽)	20	羊蹄山(京極コース)８合目で下山	羊蹄山自然公園キャンプ場	(小樽潮陵、小樽桜陽)	12(10?)
			小樽桜陽(小樽潮陵)	9			女子は参加なし	0
2018(H30)	新見温泉～目国内岳	ニセコサヒナキャンプ場	小樽潮陵(小樽桜陽)	15	羊蹄山（真狩コース）	羊蹄山自然公園キャンプ場	(小樽潮陵、小樽桜陽)	13
			該当なし(小樽潮陵、小樽桜陽)	2			(小樽潮陵)	1
2019(H31,R1)	岩内岳～目国内岳	岩内オートキャンプ場	小樽潮陵(小樽桜陽)	15	実施なし			
			該当なし(小樽潮陵)	1				
2020(R2)	実施なし				実施なし			
2021(R3)	実施なし				実施なし			
2022(R4)	実施なし				実施なし			
2023(R5)	実施なし				実施なし			
2024(R6)	実施なし				実施なし			
2025(R7)	実施なし				実施なし			

支部大会・秋季大会共に参加校は小樽潮陵高校と小樽桜陽高校である。

小樽支部大会はチーム4名そろわなくても参加を認めていたので、ほぼ毎年、両校とも男女少なくとも１名は参加していた。

2015(平成27)年度の札幌支部の秋季大会には小樽潮陵高校から男子5(4?)名、小樽桜陽高校から男子4名、女子2名が参加した。

2018(平成30)年の小樽支部大会に女子は2名参加しているが、潮陵1名、桜陽1名だった。

平成29年度は栃木県の那須雪崩事故を受けて、全く雪のないカムイヌプリ・室蘭岳で支部大会を行った。

秋季大会は、小樽潮陵高校と小樽桜陽高校の部員の交流が主な目的だったので、順位はつけていない。

【空知支部のあゆみ】

【北海道高体連登山専門部　岩見沢東高等学校　梅川　悟史】

★岩見沢東高校山岳部のあゆみ（2004 年～2015 年）

岩見沢東高校山岳部は、空知支部の有力校として、大雪山系や十勝連峰などの北海道を代表する山から地元空知の低山まで、道内各地の山々に足跡を残してきました。この 12 年間における、先輩方の技術の向上と伝統の形成について紹介します。

１　大会参加と主要山行

この期間、部は高体連大会の常連としてその実力を示し続けてきました。2004 年には十勝幌尻岳・伏美岳・ピパイロ岳で開催された第 43 回全道大会に出場。2006 年の白水岳・狩場山での全道大会では、連日の雨と過酷な行程に苦しみながらも、サポート隊の援助を得て完走を果たし、大きな自信を得ました。2010 年に入ると活動はさらに深化し、2011 年には岩内岳・目国内岳での全道大会でベスト８に入賞。その後も 2014 年のウペペサンケ山・ニペソツ山、2015 年の風不死岳・樽前山・羊蹄山など、道内の主要な難関コースに挑み続けました。

２　技術研鑽と伝統の形成

この頃の岩東山岳部の特徴は、単なる登山に留まらない多角的なトレーニングと技術習得にあります。

（１）クライミングの導入

2008 年、支部大会の当番校であった美唄工業高校でのクライミング研修を機に人工壁への挑戦が本格化しました。その後、北海道教育大学岩見沢校のウォールを「岩東山岳部の登竜門」として活用し、高度な技術習得を図りました。

（２）過酷な合宿訓練

2010 年のトムラウシ山での沢登り合宿は、増水した川での流落の危機や、生死を共にするような経験として部史に深く刻まれています。また、2015 年には最高難易度の芦別岳で 10 時間に及ぶ沢登りを完遂しました。

（３）冬期活動とスキーマラソン

冬期間の体力作りとして、伝統的に「札幌国際スキーマラソン」への参加を継続してきました。歩くスキーを通じて冬山の体力を養うとともに、ゴール後の豚汁を楽しむ姿は歴代部員の共通の思い出となっています。

３　「岩東魂」の継承

活動記録には、自然の厳しさに直面した際の本音と、それをユーモアで乗り越える部員たちの姿が記載されていました。食事の際の「高級レトルトカレー」を巡るジャンケン対決 、熊出没の恐怖を紛らわすための「大合唱作戦」、そして 2008 年のトムラウシ山で老人グループに追い抜かれたことで痛感した体力不足への悔しさなど、人間味あふれる当時の部員たちの様子がうかがえました。2000 年代から 2010 年代にかけて、顧問の交代や部員構成の変化を経験しながらも、「Aim for the top」のスローガンのもと、頂上を目指して仲間と協力し成長していく精神は、次の世代へと継承されていきました。

※本資料は、2004 年度、2005 年度、2006 年度、2011 年度、2014 年度、2015 年度までの活動記録に基づき、記載したものです。

★令和７年度（2025 年）のあゆみ

令和７年度は、旧岩見沢東高等学校と旧岩見沢西高等学校の統合が行われたため学校の規模が大きく変化した年です。それに伴い部活動も３年生１名、２年生４名、１年生９名の計 14 名と部員が増え、うち女子部員が７名となり、女子チームが全道大会に参加することが可能となった年でもあります。また、全道大会当番校準備を見据えた組織的な活動を展開した年でもありました。

１　春季：新体制の始動

（１）塩谷丸山（4 月 29 日）：新入部員にとっての初登山は雨の中での泥道となりましたが、全員で登頂し「尻滑り」も体験しました。

（２）浦臼山～樺戸山（5 月 17 日）：初めての縦走で、水分補給や塩分摂取の管理、足の筋力不足などの課題が浮き彫りになりました。

（3）神居尻山（5 月 25 日）：全道大会当番校準備の下見として、メインザックを背負っての行動や読図（地図読み）の訓練を実施しました。

２　夏季：今年度初の宿泊山行と全道大会

（1）暑寒別岳（6 月 6 日・7 日）：暑寒荘での初宿泊。炊事やカメムシ駆除の共同生活を経て、雪の残る急斜面を制限時間内に完登しました。

（2）高体連全道大会（6 月 24 日～27 日）：神居尻山と暑寒別岳で実施。サブリーダー（SL）としてのペース配分や、他校との計画書交換を通じた交流が大きな刺激となりました。

（3）斜里岳・雄阿寒岳（7 月 30 日～8 月 1 日）：斜里岳での本格的な沢登りに感動する一方、雄阿寒岳では急登とメンタル面の戦いを経験し、来年度の大会へのイメージを膨らませました。

（4）選抜大会・室蘭岳（8 月 23 日・24 日）：1・2 年生のみの新チームで挑戦。直射日光下の急坂に苦しみつつも、設営審査での細かな技術指導（ペグの角度等）から学びを得ました。

３　秋季：伝統の継承と自然の厳しさ

（1）樽前山・風不死岳（9 月 6 日）：3 年生の卒業山行。快晴の火山特有の景観を楽しみ、先輩との最後の登山で絆を深めました。

（2）富良野岳・十勝岳（9 月 12 日～14 日）：1 年生のみで挑んだ宿泊山行。暴風雨により「強風でテントが紛失する」という過酷な事態に直面し、準備と判断の重要性を痛感しました。

（3）夕張岳（9 月 22 日・23 日）：念願の紅葉登山。初めての「ご飯炊き」に挑戦し、炊事の段取りや下山時の安全確保、先頭歩行の難しさを学びました。

（4）黒岳（10 月 10 日・11 日）：初冬の雪山体験。大雪山の雄大さに触れ、防寒対策の不備を反省しつつ、下山時には怪我をした外国人観光客と英語で交流する国際的な場面もありました。

※本資料は、各山行で生徒の感想・反省・今後の課題から記載したものです。

　令和７年度の活動は、過去の伝統を受け継ぎつつも、より高度なリーダーシップの育成や、自然の猛威から学ぶ危機管理、さらには国際交流まで、現代の部員ならではの新しい歩みを見せました。

【旭川地区のあゆみ】

【北海道高体連登山専門部　旭川東高等学校　飯田　一三】

前任校の釧路湖陵高校で人生で初めて山岳に出会った。私の師匠となった竹中先生の指導の下、6 年間鍛えていただいた。初めての山は残雪期の藻琴山。登山というのは登山道を登ると思っていたが、ただの雪の上。30 分もしないうちに休みたくなる。1 時間後にようやく休憩。生徒も含めて誰も腰を下ろさない。GWの雌阿寒岳。キャンプしていたら、みるみる雪が積もる。翌日、天気が悪い中、竹中先生の背中を見つめながら歩く。と、突然背中が止まる。今日はここまでだなー。助かったー。初めての全道大会。沢装備で歩くチロロ岳。あまりにも歩くのが遅すぎて最後は女子隊に吸収された。初めての夏合宿はクワウンナイ。下山したときに泣いた。私が7年目に入るとき、竹中先生は旭川北高に転勤。独り立ちせざるを得なかった。6月恒例の羅臼岳。何と弥三吉水がほぼ雪の中。デポ旗を２０本打って６時間かけて登頂。恐怖が自信に変わった。2017 年の室蘭岳・来馬岳全道大会で男子優勝、翌年の上ホロ・オプタケシケ山で女子優勝し、2 年間全国大会に行った。2019 年、竹中先生のいる旭川地区の旭川東に着任した。

2020 年、コロナ蔓延のため、地区大会が中止となり、その年は竹中・細野・小池先生と大人合宿をたくさん行い、楽しく多くの経験を積むことができた。

2021 年、竹中先生が退職し、私が専門委員を引き継いだ。未だコロナが収まず、地区大会の当番校は東校であった。当時の日記的なものがあったので、抜粋しよう。

5/13（木）午後、顧問会議。いやー長かった。13:30～17:45。日程もプランＡ～Ｃまで立てた。ヒェー。その後は宿泊人数の確定。後は家で仕事。いやー、たくさんあるの～。

14（金）青年の家、休館になるとのこと。慌ててプランＢに変更。前日にきっちりやっておいて良かった～。諸々やって何とか実施要項完成し、添付送信して一日終わる。うーん、やっぱりダメだったか。

26（水）大会初日。学校の中で行う初めての大会。体育館で開会式して、地べたでペーパーテスト。一部ミスがあったりしたが、うちの生徒も当番校としてよく働いていた。天気図は俺の指導力不足。ペーパーは皆頑張ってくれた。

27（木）2 日目。この日は日帰りで美瑛富士避難小屋ピストン。天気が良くてびっくり。細かいところはいろいろあったが、きちんと登れた。あとは個人的にカッパの上を忘れてきたことがショックだったなー。精神的には当番校でとっても疲れた～。

28（金）最終日は顧問会議のみ。順位を決めて表彰状は各校に手渡しして終了。男子は 1 ～3 位独占。女子は 2 位。午後、生徒とミーティング。女子の得点を見てかなりの悔しさ。新体制は予想通り。これからだ。これから俺の真価が問われる。

2025 年現在、旭川東、旭川北、旭川西、旭川工業、富良野高校（富良野緑峰から合併）の５校の体制で行っている。地区大会では男子約 50～60 名、女子 20 名前後である。顧問は各校２名前後であり、特に 2000m級の十勝、大雪連峰の残雪期は非常に慎重なコース取りや観天望気が必要である。その中でも、約 20 年旭川に在籍している細野先生の存在は大きい。残雪期のコース取りや危険箇所は全部細野先生に教わっているし、審査基準や方法なども常に心砕いていただいている。東川町在住の髙井先生、比布在住の川名先生、旭川在住の水野先生にもＯＢとしてかなり協力していただいている。また、顧問ではなくなったが、旭川商業の山下先生、旭川永嶺の牛久保先生にもお世話になっている。

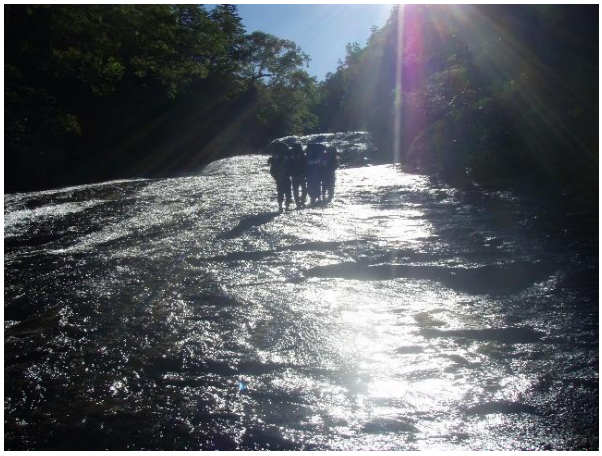
2000 年代前半の記録を見ると、旭川農業、旭川南、上川・東川そして増毛高校と大きい支部だったようだ。地区大会の山域は多くが吹上温泉を起点に、十勝岳～上ホロカメットク山の縦走が多いが、美瑛岳・オプタケシケ山・富良野岳にも登っている。近年は吹上温泉から凌雲閣までの遊歩道が整備され、バリエーションが増えている。上川高校が当番校の際には黒岳を舞台としていることが多く、急な斜面では生徒の滑落防止のため、顧問が下で手を広げている、といったシーンもあったそうだ。審査基準は全道と同一基準としており、ペーパーテストも当番校が採点しており、私の代で採点を顧問で行うなど少しスリム化した当番校体制としてきている。

旭川支部の大きな特徴としては、2 月にスキー研修を行っていることだ。これはかなり前から存在しているようで毎年三段山に行っていた。ただ、厳冬期の 2000m級はやはり凍傷やホワイトアウト、雪崩の危険性が高いので、近年は江丹別の宿泊施設を起点に幌加内に行くこ

とが多くなっている。今年度は顧問会議と併せて行うために３月に実施し、厳冬期は過ぎているので三段山の予定である。

2023 年北海道インターハイ。旭川支部の総力を挙げての開催。内海登山隊長、細野総務委員長、小池男子隊長、飯田女子隊長をはじめとしてＯＢも含めてまさしく総動員であった。私自身はこれまで７度全国大会に引率しているが大会運営としては群を抜いていると考えている。ただ、地元開催だったにもかかわらず、出場した北海道代表の旭川東、旭川北の成績が最高で 12 位とふるわなかったのが悔しい思い出だ。その悔しさをバネに翌年 2024 年福岡大会において、北海道としては史上初めての旭川東男子優勝、女子準優勝を飾ることができた。

今後の支部体制の懸念はやはり校数の減少だ。それに伴い顧問の数や経験値の不足も心配である。地元の山岳会にも協力を仰ぎながら今後とも運営をしていきたい。十勝、大雪連邦の神々に、カムイミンタラに見守られて今後とも楽しんでいきたいと考えている。



旭　川　支　部　の　歩　み　①

	支部大会							秋季大会			
	山域	宿泊地等	男子優勝 女子優勝	男子２位 女子２位	男子３位 女子３位	参加校 参加校	男子参加人数 女子参加人数	山域	宿泊地等	参加校 参加校	男子参加人数 女子参加人数
1983			富良野工業								
1984	永山岳							三段山・上ホロ			
1985	旭岳										
1986								剣山			
1987			旭川東栄								
1988	富良野岳 （原始が原コース）		旭川東栄					芦別岳			
1989	旭岳	旭岳野営場	富良野工業 旭川東栄	旭川東 旭川東				天塩岳	天塩岳 ヒュッテ		
1990	天塩岳	天塩岳 ヒュッテ	旭川東 旭川東栄	富良野工業	増毛			ウェンシリ岳	ウェンシリ キャンプ場		
1991	永山岳	愛山渓温泉	旭川東 旭川東	富良野工業	旭川東栄			旭岳	旭岳野営場		
1992	美瑛岳	白金温泉 キャンプ場	旭川東 旭川東栄	富良野工業	旭川東栄			剣山（十勝）	剣山神社		
1993	暑寒別岳	暑寒山荘	富良野工業 旭川東	旭川東	旭川東栄			暑寒別岳 （箸別コース）	暑寒別自然公園		
1994	黒岳	層雲峡野営場	旭川東 旭川東	富良野工業 旭川北	旭川西 旭川西			永山岳	愛山渓温泉		
1995	旭岳	旭岳野営場	旭川東 旭川西	富良野工業	旭川北			平山・比麻良山	北大雪 キャンプ場		
1996	天塩岳	天塩岳 ヒュッテ	旭川東 旭川東栄	富良野工業	旭川北			ニペソツ山	十勝三股 駅前広場		
1997	オプタケシケ山	白金温泉 キャンプ場	旭川東 チーム参加なし	旭川北	富良野工業			剣山（十勝）	剣山神社		
1998	暑寒別岳	暑寒山荘	旭川東 チーム参加なし	富良野工業				暑寒別岳	暑寒山荘		
1999	上ホロ・十勝岳	白金温泉 キャンプ場	旭川東 旭川東		旭川南	7 3	41 15	芦別岳	山部太陽の里		
2000	天塩岳	天塩岳ヒュッテ 前キャンプ場	旭川東 旭川東	旭川南				三頭山	朱鞠内湖畔 キャンプ場	3 1	16 9

旭　川　支　部　の　歩　み②

	支部大会							秋季大会			
	山域	宿泊地等	男子優勝 女子優勝	男子２位 女子２位	男子３位 女子３位	参加校 参加校	男子参加人数 女子参加人数	山域	宿泊地等	参加校 参加校	男子参加人数 女子参加人数
2001	黒岳	層雲峡野営場	旭川東 旭川東	旭川南				赤岳・緑岳	層雲峡野営場		
2002	美瑛岳・十勝岳	白銀荘	旭川東 旭川東			6 3	38 17	富良野岳・上富良野岳・原始ケ原	ニングルの森	4 3	16 12
2003	天塩岳	天塩岳ヒュッテ前キャンプ場	旭川東 旭川東			7 1	31 7	旭岳	旭岳野営場		
2004	上ホロ・十勝岳	白銀荘	東川 旭川東	旭川東				富良野西岳	山部太陽の里		
2005	永山岳	上川菊水元小学校(風の便り工房菊水ﾌﾞﾗﾝﾁ)	旭川工業 富良野緑峰			6 2	21 5	音更山	プヨ沼野営指定地		
2006	黒岳・北鎮岳	層雲峡野営場	旭川東			7 2	46 3	赤岳・緑岳	層雲峡野営場		
2007	旭岳	旭川市21世紀の森ﾌｧﾐﾘｰｿﾞｰﾝｷｬﾝﾌﾟ場	旭川東	旭川工業	旭川北	7 1	41 2	平山	白滝高原キャンプ場		
2008	上ホロ・十勝岳	白銀荘	旭川東	東川		5 1	32 1	天塩岳	天塩岳ヒュッテ前キャンプ場		
2009	暑寒別岳	暑寒山荘	旭川東 旭川東	東川	旭川西	6 1	34 6	暑寒別岳	リバーサイドパーク		
2010	富良野岳・上富良野岳	白銀荘	旭川東 旭川東	旭川北	旭川西	6 2	29 5	ウペペサンケ山	糠平キャンプ場	3 3	8 9
2011	美瑛岳・十勝岳	白銀荘	旭川北 旭川東	上川		4 3	16 11	緑岳・白雲岳	白雲岳避難小屋キャンプ場	4 2	13 5
2012	上ホロカメットク～十勝岳	白銀荘	旭川北 旭川東	旭川工業 旭川北	旭川西	6 2	38 8	天塩岳	天塩岳ヒュッテ前キャンプ場	6 2	31 6
2013	オプタテシケ山	白銀荘	旭川北 旭川東	旭川東 旭川北	旭川西	6 2	53 6	トムラウシ山	トムラウシ自然休養林野営場	6 2	44 4
2014	黒岳・北鎮岳	層雲峡オートキャンプ場	旭川東 旭川東	旭川北 旭川北	旭川西 上川	6 3	65 15	緑岳・白雲岳	白雲岳避難小屋キャンプ場	5 2	42 13
2015	上ホロカメットク～十勝岳	白銀荘	旭川東 旭川東	旭川北	旭川西	5 3	63 15	斜里岳	来運･水の学校	5 3	43 14
2016	旭岳	旭岳青少年野営場	旭川東 旭川東	旭川北	旭川西	5 4	63 26	暑寒別岳 南暑寒岳	暑寒野営場	5 4	40 16
2017	上ホロカメットク～十勝岳	白銀荘	旭川東 旭川東	旭川北 旭川西	旭川西	5 4	52 19	羊蹄山	真狩野営場	5 4	33 13
2018	富良野岳～上ホロカメットク	白銀荘	旭川東 旭川東	旭川北 旭川北	旭川西 旭川西	4 3	47 22	雌阿寒岳	オンネトー野営場	4 2	23 11
2019	十勝岳～上ホロカメットク	白銀荘	旭川東 旭川北	旭川北 旭川東	旭川工業	3 2	41 17	芦別岳	山部太陽の里	4 2	32 11
2020	コロナウイルス感染拡大による中止							美瑛岳 美瑛富士	白銀荘	5 3	28 10
2021	美瑛富士避難小屋	宿泊なし	旭川東 旭川北	旭川北 旭川東	旭川工業 旭川西	5 4	44 16	富良野西岳	山部太陽の里	5 3	27 14
2022	上ホロカメットク～十勝岳	白銀荘	旭川東 旭川東	旭川北 旭川北	旭川西 旭川西	5 4	59 28	ニセコ	五色温泉野営場	5 3	47 16
2023	富良野岳	白銀荘	旭川東 旭川北	旭川北 旭川東	富良野緑峰 旭川西	5 3	65 19	三国山 雌阿寒岳	オンネトー野営場	5 4	41 17
2024	旭岳	東川町運動公園	旭川東 旭川東	旭川北 旭川北	旭川工業 旭川西	5 4	57 23	暑寒別岳	暑寒山荘	5 2	41 8
2025	十勝岳	白銀荘	旭川東 旭川東	旭川工業 旭川西	旭川西 富良野	5 4	55 23	熊の危険性により中止			

【　オホーツク地区のあゆみ　】　　【元遠軽高校　畑野和宏】

オホーツク地区の山岳部は活発な活動をしていたという話をよく聞く。私が遠軽高校に在籍し陸上競技に没頭していた 45 年ほど前は、現在も活動を続けている北見北斗、遠軽ばかりでなく７～８校が活動していたようである。ちなみに当時（昭和 54～56 年）の遠軽高校には山岳部は存在せず、山岳同好会と名乗り細々と活動していた。オホーツク地区のこれまでを振り返るにあたり、詳細を記した資料は高体連北見支部誌「さんけい」しか見当たらず、聞いた話や私の記憶に頼る部分も多いことをお断りしておく。

前述した「さんけい」によれば、北見地区大会（現在はオホーツク支部大会）の第 1 回大会は斜里岳を会場に昭和40年に開催されている。以来、平成15年（2003年）第 38 回大会までは毎年地区大会が行われ、北見北斗、北見柏陽、網走南ヶ丘、紋別北、紋別南、遠軽が歴代優勝校に名を連ねている。大会会場も、斜里岳、知床硫黄岳、大雪山系、永山岳、武利岳、羅臼岳、愛山渓、天塩岳など春の登山大会としてはかなり手強い山で開催されていたことがわかる。

第 39 回大会（平成 21 年）までには 5 年間のブランクがある。これは活動可能な山岳部が北見北斗と遠軽の 2 校だけになったうえ、遠軽が部員不足になったことが理由としてあげられる。

第 39 回大会は白滝平山を会場として開催された。遠軽はスポーツクライミングに特化した活動を計画していたのだが、登山の伝統校である北見北斗の植野昭仁先生が強く開催を希望し復活した。以来、新人地区大会も含め、コロナ禍で中止となった令和 2 年度の地区大会を除き、現在に至るまで当番校を交互に務めながら登山大会は継続されている。対戦成績は北見北斗の圧勝であるが、遠軽が勝利する年もある。両校ともに近年は部員数が多く、特に地区大会は男女計８パーティー、参加選手 40 名前後となかなか賑わっている。

第 46 回大会白滝天狗岳男女合流地点

43 回大会　北斗インターハイへの第一歩

さて、全道大会でのオホーツク支部の活躍を見てみよう。全道高校登山大会のプログラムから、第 1 回大会から 30 回大会までに、男子では遠軽（4 回大会）、北見柏陽（6 回）、北見北斗（11 回、16 回、19 回、20 回、25 回、26 回）、網走南ヶ丘（24 回）が優勝を果たし、女子では北見北斗（19 回、22 回、23 回）、網走南ヶ丘（24 回）が優勝していることがわかる。また全道大会の当番校も北見柏陽（11 回知床山系）、網走南ヶ丘（24 回斜里・羅臼）が務めている。この成績からするとオホーツク支部はかなりの強豪地区だといえる。

第 52 回全道大会　羅臼岳出発直前

31 回大会以降を見てみると北見北斗の活躍が目覚ましい。男子が 42 回大会（知床硫黄山・羅臼岳　北斗

が当番校）で優勝、女子は 36 回から 39 回大会までを 4 連覇し、41 回、43 回、46 回、47 回と 12 年間で 8 度の優勝を飾っている。この黄金時代は桐尾義之先生と二瓶伸一先生の指導によるところが大きい。女子は 47 回を最後に優勝から遠ざかっているが、男子は 52 回大会（斜里岳・羅臼岳　遠軽が当番校）で北見北斗が 10 年ぶりの優勝を果たした。これは佐々木亮介先生の功績が大きい。全道大会協力校としての任務も並行しながらの快挙であった。

ここでは 52 回大会について詳しく振り返ってみたい。この大会は遠軽高校が当番校であった。開催 3 年ほど前から前述した北見北斗の佐々木亮介先生の多大なる協力をいただき準備が始まった。山域の決定、キャンプ場の下見、関係の町への後援以来、予算建て、業者とのやり取り、下見等、登山畑を歩んできたわけではない私としては非常に頭の痛い準備であった。斜里岳と羅臼岳を会場としたが、特に大会直前の下見は残雪の多さにより難航した。下の写真のような状況が多々あ

進退に迷う斜里岳下見登山

万丈ノ滝崩落地点　この日の下見はここで撤退

ったうえ、男子コースとして予定していた羅臼岳羅臼コースは下見さえできずに本番を迎えたのだった。果たして、大会は雨にも見舞われコース状況の不安定さから、安全面を最優先し羅臼岳は男女ともに岩尾別コースの往復とした。

斜里岳登山日は終日雨が降り、選手たちには過酷な登山となった。幕営審査も調理審査も雨の中であり、野営場管理棟のトイレも貸していただくなど予定外の対応に追われた。あまりの悪条件に泣いている女子選手もいたほどであった。翌日の羅臼岳は最終パーティーとサポート隊の前をヒグマが通過するというアクシデントもあったが、天候の回復と上部では広大な雲海も見られたこともあり、選手たちの表情は晴れやかであった。

男子は北見北斗、女子は旭川東が優勝を果たしたわけだが、北見支部（現オホーツク支部）主催の大会で地元校がインターハイ出場を決めたことで、当番校としても肩の荷が下りた思いであった。そして、いかに登山の全道大会の当番校が大変なのかを思い知った。自然に翻弄され不確定要素が山積するこのような大会が毎年事故なく開催され、選手たちに思い出と充実感を与え続けていることは驚嘆に値する。

さて、52 回大会以降、当地区からインターハイ出場校は現れていない。それはそれで残念なことではあるが、北見北斗と遠軽の両校がその活動を停滞させることなく、雌阿寒、雄阿寒、阿寒富士、天塩、白滝天狗、黒岳、北鎮、仁頃、斜里などの山々を登りたくましく成長してくれていることが喜ばしい。

今年度で 4 回目を数えた選抜登山大会（新人戦全道大会）では第 3 回大会で遠軽高校が優勝を果たした。本校としては 59 年ぶりの登山での全道優勝であり、当地区の活動が実を結んだものと理解している。

遠軽が優勝を果たした美瑛岳での選抜大会

最後になるが、来年度は北見北斗が全道高校登山大会の当番校を務めることになる。安全を最優先し選手たちに満足してもらえる大会作りに尽力したい。また、遠軽高校はスポーツクライミングにおいて国スポ（旧国体）道予選女子団体 11 連覇、全国高校生クライミング選手権学校対抗 5 度入賞などの活躍をしており、世界大会出場に迫った選手がいたことも付け加えておく。

【十勝支部のあゆみ】

【北海道高体連登山専門部　帯広大谷高等学校　水野　秀人】

十勝支部は、大雪山系のトムラウシ山や日高山脈の山々といった身近な山域に親しみながら、長年にわたって登山活動を続けてきた。雄大な自然に恵まれる一方で、天候の急変や長い行動時間、移動距離の長さなど、登山にあたっては慎重な判断と十分な準備が求められる山が多い。そうした条件の中で、十勝支部の登山活動は「安全に、仲間とともに登る」ことを基本として積み重ねられてきた。

十勝支部の活動において大切にされてきたのは、登山を特別なものとして構えるのではなく、高校生が自然に親しみながら成長できる場として位置づける姿勢である。山に登ることそのものを目的とするのではなく、準備や計画、仲間との協力を通して、登山の楽しさと難しさの両方を学ぶことが重視されてきた。こうした考え方は、日常の部活動から支部大会に至るまで、十勝支部の活動全体に共通している。

また、十勝支部の大きな特徴として、各校が互いに協力し合い、支部全体で生徒を育てようとする雰囲気が挙げられる。学校数や部員数の多寡にかかわらず、情報を共有し、必要に応じて声を掛け合う姿勢は、長年にわたって自然な形で受け継がれてきた。大会では、学校の枠を越えて生徒同士が交流し、互いに刺激を受けながら登山技術や知識を深めていく姿が見られる。

十勝支部では、競技成績を第一に考えるのではなく、高校生登山の普及という側面を大切にしてきた。初めて登山に取り組む生徒でも参加しやすい環境づくりや、安全に配慮した活動内容の工夫は、その一例である。登山経験の浅い生徒が不安を感じることなく山に入れるよう、学校の垣根を越えてサポートする文化は、十勝支部ならではの良さと言えるだろう。大会当日は、競技としての緊張感を保ちつつも、下山後は支部の選手たちが一同に集まり交流している姿が見られる。

こうした大会運営が継続されてきた背景には、歴代の専門委員や顧問教諭をはじめとする関係者の地道な努力がある。気象条件やフィールド状況を踏まえた判断、安全確保を最優先とする運営方針、そして生徒の成長を第一に考える姿勢は、時代が変わっても変わらず受け継がれてきた。大会の形態や内容が少しずつ変化してきた中でも、その根底にある考え方は一貫している。

近年、部活動を取り巻く環境は大きく変化しており、登山部の活動も決して平坦な道のりではない。しかしそのような状況の中にあっても、十勝支部では「山に親しむこと」「安全に登ること」「仲間と協力すること」を大切にした活動が続けられてきた。この積み重ねこそが、十勝支部の歩みを支えてきた力である。

こうした十勝支部の活動の考え方や雰囲気を踏まえつつ、次頁において第１回大会からの支部大会と新人大会記録を掲載する。そこに並ぶ年号や開催地の一つひとつには、多くの生徒や指導者が山に向き合い、経験を積み重ねてきた歴史が刻まれている。十勝支部のこれまでの歩みを振り返ることが、今後の登山活動のさらなる充実と安全につながることを願いたい。

（令和７年度支部大会より　雄阿寒岳にて）

十勝支部大会の記録

回	当番校	年月日	会場	野営地	代表校	
					男子	女子
1	三条高	37.6.23.～24	ウペペサンケ山	2km 地点	三条・柏葉	大谷高
2	三条高	38.6.17.～18	ニペソツ山	三条沼	帯農・芽室	大谷高
3	三条高	39.6.6～7	ニペソツ山	雪洞	柏葉・白樺	柏葉・三条
4	柏葉高	40.6.19.～21	芽室岳	登山口	帯工・南商	柏葉・大谷
5	帯農高	41.6.4.～6	ニペソツ山	雪洞	帯北・帯農	柏葉・大谷
6	三条高	42.5.13.～15	十勝幌尻岳	ｵﾋﾟﾘﾈｯﾌﾟ沢	三条・柏葉	芽室・大谷
7	三条高	43.5.31～6.2	ｺｲｶｸｼｭｻﾂﾅｲ岳	ｺｲｶｸｼｭｻﾂﾅｲ沢	帯農・柏葉・芽室	南商・三条
8	柏葉高	44.6.13.～15	ﾎﾟﾝﾔｵﾛﾏｯﾌﾟ岳	奥ニ股	芽室・柏葉	芽室・大谷
9	芽室高	45.6.12.～14	戸蔦別岳	チロロ川	帯農高	芽室高
10	芽室高	46.6.5.～7	ウペペサンケ山	ﾕｰﾔﾝﾍﾞﾂ川	柏葉高	芽室高
11	大谷高	47.6.9.～11	石狩・音更山	十九の沢	芽室高	柏葉高
12	三条高	48.6.2.～4	ニペソツ山	杉沢出合	帯北・帯農	芽室高
13	帯北高	49.6.1.～3	ウペペサンケ山	4Km 地点	帯北高	芽室高
14	芽室高	50.5.31.～6.2.	伏美岳	トムラウシ沢	帯農高	芽室高
15	帯農高	51.6.5.～7	楽古岳	札楽古岳	芽室高	帯北高
16	帯北高	52.6.4.～6	芦別岳	ユーフレ川	帯農高	帯北高
17	柏葉高	53.6.3.～5	伏美岳	トムラウシ沢	柏葉高	帯北高
18	帯北高	54.6.2.～4	芽室岳	ﾇﾌﾟﾘﾊｵﾏﾍﾞﾂ	柏葉高	大谷高
19	帯農高	55.6.7.～9.	芦別岳	ユーフレ川	柏葉高	大谷高
20	帯北高	56.6.5.～7.	ニペソツ山	杉沢出合	柏葉高	大谷高
21	大谷高	57.6.4～6.	伏美・ﾋﾟﾊﾟｲﾛ岳	伏美小屋	柏葉高	大谷高
22	柏葉高	58.6.3.～5	夕張岳	ﾄﾅｼﾍﾞﾂ出合	柏葉高	大谷高
23	帯農高	59.6.1.～3	芽室岳	登山口	柏葉高	帯北高
24	芽室高	60.5.31.～6.2.	伏美・ﾋﾟﾊﾟｲﾛ岳	伏美小屋	柏葉高	帯北高
25	帯北高	61.5.30.～6.1.	ニペソツ山	杉沢出合	柏葉高	帯北高
26	大谷高	62.6.5.～7	ウペペサンケ山	ﾕｰﾔﾝﾍﾞﾂ川	帯農高	大谷高
27	柏葉高	63.6.3.～5	ニペソツ山	幌加温泉	柏葉・帯農	柏葉・帯北
28	帯農高	1.6.2.～4	十勝幌尻岳	ｵﾋﾟﾘﾈｯﾌﾟ沢	帯農高	柏葉高
29	芽室高	2.6.1.～3	伏美・ﾋﾟﾊﾟｲﾛ岳	伏美小屋	緑陽高	柏葉高
30	帯北高	3.5.31.～6.2.	芦別岳	ユーフレ川	柏葉高	柏葉高
31	大谷高	4.5.29.～31	ウペペサンケ山	ﾕｰﾔﾝﾍﾞﾂ川	柏葉高	柏葉高
32	帯農高	5.6.4.～6	十勝幌尻岳	ｵﾋﾟﾘﾈｯﾌﾟ沢	柏葉高	柏葉高
33	緑陽高	6.6.4.～6	伏美岳	伏美小屋	柏葉高	柏葉高
34	帯北高	7.6.2.～4	芦別岳	太陽の里	柏葉高	柏葉高
35	芽室高	8.5.31.～6.2.	沼ノ原山	ﾇﾌﾟﾝﾄﾑﾗｳｼ	柏葉・帯農	なし
36	柏葉高	9.5.30.～6.1.	ウペペサンケ山	ｼｲｼｶﾘﾍﾞﾂ川	柏葉高	柏葉高
37	帯農高	10.5.29.～31	トムラウシ山	最終土場跡	帯北・柏葉	なし
38	大谷高	11.6.4.～6	トムラウシ山	最終土場跡	柏葉・帯農	なし
39	柏葉高	12.6.2.～4	ユニ石狩岳	御殿飯場跡	柏葉・帯農	なし
40	緑陽高	13.6.1.～3	伏美・ﾋﾟﾊﾟｲﾛ岳	伏美小屋	柏葉・帯農	なし

41	帯北高	14.5.31.～6.3.	沼ノ原山	ﾇﾌﾟﾝﾄﾑﾗｳｼ	帯農・柏葉	なし
42	帯農高	15.5.29.～31	トムラウシ山	最終土場跡	帯農・柏葉	なし
43	大谷高	16.6.3.～5	伏美・ﾋﾟﾊﾟ仁岳	伏美小屋	柏葉・帯農	大谷高
44	緑陽高	17.6.2.～4	芦別岳	太陽の里	帯農・帯北	大谷高
45	柏葉高	18.6.1.～3	伏美・ﾋﾟﾊﾟ仁岳	伏美小屋	帯農高	なし
46	帯北高	19.5.31.～6.2.	芦別岳	太陽の里	柏葉・大谷	帯北高
47	大谷高	20.5.29.～31	トムラウシ山	ﾄﾑﾗｳｼｷｬﾝﾌﾟ場	柏葉・帯農	なし
48	帯農高	21.5.28.～30	ニペソツ山	杉沢出合	柏葉高	帯農高
49	緑陽高	22.5.27.～29	芽室岳・芽室西峰	登山口	柏葉高	帯農高
50	柏葉高	23.5.26.～28	ウペペサンケ山	ぬかびらｷｬﾝﾌﾟ場	柏葉高	帯農高
51	大谷高	24.5.24～26	ニペソツ山	杉沢出合	帯農高	柏・農合同
52	大谷高	25.5.23～25	雄阿寒岳	阿寒湖畔ｷｬﾝﾌﾟ場	柏葉高	柏葉高
53	帯農高	26.5.22～24	芦別岳	太陽の里	柏葉・帯農・芽室	柏葉・帯農
54	柏葉高	27.5.21～23	伏美岳	伏美小屋	柏葉・帯農	帯農高
55	大谷高	28.5.26～28	アポイ～ピンネシリ	ｱﾎﾟｲ岳山麓ｷｬﾝﾌﾟ場	柏葉・帯農	柏葉・帯農
56	帯農高	29.5.25～27	芦別岳	太陽の里	帯農・柏葉	帯農・柏葉
57	帯柏葉	30.5.24～26	雌阿寒岳・阿寒富士	ｵﾝﾈﾄｰ国設野営場	帯柏葉	帯農高
58	芽室高	R1.5.19～21	雄阿寒岳	阿寒湖畔ｷｬﾝﾌﾟ場	帯柏葉・帯大谷	帯柏葉
59	大谷高	新型コロナウイルス感染症拡大により中止				
60	帯農高	3.5.20～22	芦別岳	宿泊なし	帯農高・帯柏葉	芽室高
61	帯柏葉	4.5.26～28	雄阿寒岳	阿寒湖畔キャンプ場	帯農高	帯柏葉
62	帯農高	5.5.25～27	芦別岳	太陽の里	帯農高	大谷高
63	芽室高	6.5.24～26	白湯山・雌阿寒岳	阿寒湖畔ｷｬﾝﾌﾟ場	帯柏葉・帯農高	帯農高
64	大谷高	7.5.22～24	雄阿寒岳	阿寒湖畔ｷｬﾝﾌﾟ場	帯農高・大谷高	帯柏葉

十勝支部新人大会の記録

回	当番校	年月日	会場	野営地
1	三条高	41.	ピリベツ岳	
2	柏葉高	42.11.3～ 6	石狩岳・音更山	(雪のため中止)
3	芽室高	43.9.13～15	伏美岳	トムラウシ沢
4	帯北高	44.9.26～28	十勝幌尻岳	ピリカペタン沢
5	帯農高	45.10.8～ 9	ニペソツ山	杉沢出合
6	柏葉高	46.10.30～1	石狩岳	十九の沢
7	芽室高	47.9.29～ 1	トムラウシ山	トムラウシ温泉
8	帯農高	48.10.1～ 3	楽古岳	札楽古川右股河原
9	新得高	49.10.4～ 6	芦別岳	新道コース入口
10	帯北高	50.10.9～11	西ｸﾏﾈｼﾘ・ﾋﾟﾘﾍﾞﾂ岳	シンノスケ三の沢
11	大谷高	51.10.7～ 9	石狩・音更山	十九の沢
12	帯農高	52.10.6～ 8	ニペソツ山	杉沢出合
13	芽室高	53.10.5～ 7	十勝幌尻岳	ｵﾋﾟﾘﾈｯﾌﾟ沢
14	帯北高	54.9.12～14	十勝幌尻岳	ｵﾋﾟﾘﾈｯﾌﾟ沢
15	帯農高	55.9.12～14	ｺｲｶｸｼｭｻﾂﾅｲ岳	ｺｲｶｸｼｭｻﾂﾅｲ川
16	帯北高	56.9.10～12	ﾎﾟﾝﾔｵﾛﾏｯﾌﾟ岳	奥ニ股
17	大谷高	57.10.1～ 3	石狩岳・音更山	御殿跡

18	柏葉高	58.10.6～ 8	ｺｲｶｸｼｭｻﾂﾅｲ岳	ｺｲｶｸｼｭｻﾂﾅｲ川
19	帯農高	59.10.4～ 6	楽古岳	札楽古川右岸牧草地
20	芽室高	60.10.3～ 5	十勝幌尻岳	ｵﾋﾟﾘﾈｯﾌﾟ沢
21	帯北高	61.9.25～27	芦別岳	太陽の里
22	大谷高	62.9.25～27	石狩岳・音更山	御殿跡
23	柏葉高	63.9.17～19	富良野岳・上ﾎﾛｶﾒｯﾄｸ山	吹上温泉(白銀荘)
24	帯農高	元.9.20～22	トムラウシ山	最終土場跡
25	芽室高	2.9.21～23	芽室岳	登山口
26	帯北高	3.9.18～19	雌阿寒岳・阿寒富士	ｵﾝﾈﾄｰｷｬﾝﾌﾟ場
27	大谷高	4.9.24～26	チロロ岳	曲沢入口
28	帯農高	5.9.16～18	トムラウシ山	最終土場跡
29	緑陽高	6.9.27～29	石狩岳・音更山	御殿跡
30	帯北高	7.9.16～18	雌阿寒岳・阿寒富士	ｵﾝﾈﾄｰｷｬﾝﾌﾟ場
31	芽室高	8.9.19～21	芽室岳	登山道入口
32	柏葉高	9.9.24～26	石狩岳	御殿跡
33	帯農高	10.9.10～12	ニペソツ山	登山口土場跡
34	大谷高	11.9.8～10	雄阿寒岳	阿寒湖畔キャンプ場
35	柏葉高	12.9.7～ 9	芦別岳	太陽の里ｷｬﾝﾌﾟ場
36	緑陽高	13.9.6～ 8	ニペソツ山	登山口土場跡
37	帯北高	14.9.26～28	雌阿寒岳・阿寒富士	ｵﾝﾈﾄｰｷｬﾝﾌﾟ場
38	帯農高	15.9.22～24	十勝幌尻岳	ｵﾋﾟﾘﾈｯﾌﾟ沢
39	大谷高	16.9.22～24	雌阿寒岳・阿寒富士	阿寒湖畔ｷｬﾝﾌﾟ場
40	緑陽高	17.9.20～22	芽室岳	登山口入口
41	柏葉高	18.9.20～22	雌阿寒岳・阿寒富士	ｵﾝﾈﾄｰｷｬﾝﾌﾟ場
42	帯北高	19.9.17～19	雌阿寒岳・阿寒富士	ｵﾝﾈﾄｰｷｬﾝﾌﾟ場
43	大谷高	20.10. 6～8	上ﾎﾛｶﾒｯﾄｸ山	吹上温泉ｷｬﾝﾌﾟ場
44	帯農高	21.9.16～18	夕張岳	登山口入口
45	緑陽高	22.9.22～24	芦別岳	太陽の里
46	柏葉高	23.9.15～17	ニペソツ山	登山口土場跡
47	大谷高	24.9.13～15	雌阿寒岳・阿寒富士	ｵﾝﾈﾄｰｷｬﾝﾌﾟ場
48	大谷高	25.9.12～14	天宝山・ニペソツ山	国設ぬかびら野営場
49	帯農高	26.9.19～21	黒岳・北鎮岳	層雲峡野営場
50	柏葉高	27.9.10～12	旭岳・裾合平	東川町青少年野営場
51	大谷高	28.9.15～17	斜里岳	清里町ｵｰﾄｷｬﾝﾌﾟ場
52	帯農高	29.9.14～16	黒岳・北鎮岳	層雲峡野営場
53	帯柏葉	30.9.13～15	芦別岳(旧道・新道)	太陽の里
54	芽室高	元.9.12～14	美瑛岳・十勝岳	白銀荘前ｷｬﾝﾌﾟ場
55	大谷高	2.10.1	白雲山・天望山	なし
56	帯農高	3.10.16	雌阿寒岳・阿寒富士	なし
57	帯柏葉	4.10.7～8	芦別岳	太陽の里ｷｬﾝﾌﾟ場
58	帯農高	5.9.22～23	三段山・美瑛岳	吹上温泉ｷｬﾝﾌﾟ場
59	芽室高	6.9.20～21	旭岳	東川町青少年野営場
60	大谷高	7.9.18～20	裾合平・北鎮岳・旭岳	東川町青少年野営場

【釧根支部のあゆみ】

【北海道高体連登山専門部　釧路湖陵高等学校　玉森　一】

１．釧根支部の過去と現在

過去の記録が地区専門員会に残っていないため、詳しいことは不明であるが、昭和 40 年代から 50 年代にかけては、釧路市や根室市などの市部以外の高校にも山岳部が存在しており、登山競技が盛んだったことがわかっている。特に昭和 30 年代から 40 年代までは標茶高校や、現在はすでに廃校になってしまっている標茶農業高校が全道でも強豪校として知られており、全国大会に難度も出場している。しかし、一次産業・二次産業の衰退とともに徐々に高校の統廃合や間口の減少が進む中で郡部の高校から山岳部が姿を消すようになった。その結果、全道大会で活躍するチームも減少し、釧根地区の代表が全国大会に進むことも少なくなってきてしまった。

平成に入ると、山岳部がある高校が釧路湖陵・釧路北陽・根室の三校となり、昭和と比べるとかなり寂しい状況になってきてしまった。しかし、平成の後半から釧路湖陵がインターハイの出場権を獲得するようになり、やや盛り上がりを見せるようになった。これは、現在旭川東高校の顧問である飯田先生が湖陵高校の顧問であった時に一生懸命に指導を行った結果である。

令和になるとコロナウイルスの流行で、地区大会の中止や泊を伴う山行の制限などにより、各高校の活動が鈍くなるのに呼応するように徐々に各高校の人数が減少していく。令和４年には釧路北陽高校の部員が０となり、６年度をもって廃部。令和５年度末には根室高校も廃部となっており、釧根地区の加盟校は釧路湖陵高校のみとなってしまった。その湖陵高校でも間口減の影響から部員数の確保に苦慮しており、苦しい状況となっている。

２．令和になってからの釧路支部大会の記録

1)令和元年度

コロナのために支部大会が中止。また全道大会・高校総体も中止となってしまい。全道で２連覇を果たしていた湖陵女子チームの連覇の夢がはかなく消えてしまった。

秋季大会は西別岳・摩周岳を会場に日帰りで行われた。参加校は釧路湖陵・釧路北陽・根室の三校である。当日は非常に天気も良く、全員が摩周岳登頂を果すことができた。釧路支部では支部大会以外は交流を目的としており、和やかな雰囲気の山行を楽しむことができた。

2)令和２年度

春季大会(雄阿寒岳：参加校、湖陵・北陽・根室)残雪が残る中での山行であった。途中でやや天候も崩れぬれる状況であったが無事下山することができた。

支部大会(雄阿寒岳；参加校、湖陵・北陽・根室)春季大会から２週間と短い間隔で同じ会場での支部大会であった、コロナ感染症対策のためテント泊ではなく、各校が施設を利用する形の変則開催であった。大会自体は問題なく終わることができたが、この大会が、釧路北陽高校が参加する最後になってしまった。

3)令和３年度

春季大会(雄阿寒岳：参加校、湖陵・根室)

支部大会(雄阿寒岳：参加校、湖陵・根室)

秋季大会(羅臼岳：参加校、湖陵・根室)現在は規制がかかっている羅臼岳を会場に行われた。微風・快晴の最高のコンディションでの山行であった。北方領土から根室半島にかけて雲一つ無い根室海峡を山頂から眺めることができ生徒達も引率教員も楽しくのこぼることができた。

4)令和４年度

支部大会(雌阿寒岳・阿寒富士：参加校、湖陵・根室)最後の支部大会である。天気は快晴、西側には残雪が残る日高山脈から大雪の山なみが、東側には斜里岳から羅臼岳に至る知床の山々を見ることできとても満足のいくものであった。ただ、この大会を最後に根室高校も部員がいなくなり、釧根支部での最後の大会となってしまった。

現在は湖陵高校のみが部活として活動している。アウトドアの中でも登山はやはり敷居が高いものなのかもしれないが、今まで山に登っていた生徒が大人になったとき、子供を連れて登山に行ってもらえたらと思いながら日々の指導に当たっている。

(了)

釧根支部の歩み

	支部大会				秋季大会				その他の大会
	山域	宿泊地等	男子順位(参加校) 女子順位(参加校)	男子参加人数 女子参加人数	山域	宿泊地等	男子順位(参加校) 女子順位(参加校)	男子参加人数 女子参加人数	山域
1998	不明	不明			不明				
1999	不明	不明			不明				
2000	不明	不明			不明				
2001	不明	不明			不明				
2002	不明	不明			不明				
2003	不明	不明			不明				
2004	雌阿寒岳	国設オンネトー 野営場	釧路湖陵(２校) 根室(1校)	10 4	不明				
2005	西別岳・摩周岳	不明	釧路湖陵(２校) 根室(1校)	10 4	不明				
2006	雄阿寒岳	不明	釧路湖陵(２校) 根室(1校)	7 6	不明				
2007	雌阿寒岳、阿寒富士	国設オンネトー 野営場	釧路湖陵(3校)	11	不明				
2008	西別岳・摩周岳	西別小屋	釧路湖陵(２校) 根室(1校)	17 5	不明				
2009	雄阿寒岳	阿寒湖畔 キャンプ場	釧路湖陵(２校) 根室(1校)	19 4	羅臼岳	知床野営場			
2010	雌阿寒岳	国設オンネトー 野営場	釧路湖陵(３校) 根室(２校)	19 5	斜里岳	来運元小学校	男子3校 女子2校	17 5	
2011	西別岳・摩周岳	西別小屋	釧路湖陵(３校) 該当なし(3校)	26 6	羅臼岳	知床野営場			
2012	雄阿寒岳	阿寒湖畔 キャンプ場	釧路湖陵(３校) 釧路湖陵(２校)	20 8	斜里岳 (雨のため登山は中止)	来運元小学校			
2013	雌阿寒岳	国設オンネトー 野営場	釧路湖陵(３校) 釧路湖陵(２校)	40 8	羅臼岳	知床野営場			
2014	西別岳・摩周岳	中標津緑ヶ丘 森林キャンプ場	釧路湖陵(３校) 釧路湖陵(２校)	37 8	斜里岳	来運元小学校			
2015	雄阿寒岳	阿寒湖畔 キャンプ場	釧路湖陵(３校) 釧路湖陵(２校)	37 9	羅臼岳	知床野営場			
2016	雌阿寒岳	国設オンネトー 野営場	釧路湖陵(３校) 釧路湖陵(２校)	21 7	斜里岳	三井元小学校			
2017	西別岳・摩周岳	不明	釧路湖陵(３校) 釧路湖陵(２校)	23 7	不明	不明			
2018	雌阿寒岳	不明	釧路湖陵(2校) 釧路湖陵(２校)	27 6	不明	不明			
2019	雄阿寒岳	阿寒湖畔 キャンプ場	釧路湖陵(2校) 釧路湖陵(1校)	20 9	不明	不明			
2020	コロナのため大会中止				西別岳・摩周岳	無し			
2021	雄阿寒岳	コロナのため 宿泊施設	釧路湖陵(３校) 釧路湖陵(２校)	24 4	雄阿寒岳	無し			雄阿寒岳
2022	雄阿寒岳	阿寒湖畔 キャンプ場	釧路湖陵(2校) 釧路湖陵(1校)	12 8	羅臼岳		男子2校 女子1校		西別岳・摩周岳
2023	雌阿寒岳	阿寒湖畔 キャンプ場	釧路湖陵(2校) 釧路湖陵(1校)	14 4					
2024	支部大会開催せず								
2025	支部大会開催せず								